

| 2. 事業の概要と成果 |  |
|-------------|--|
| (1) 上位目標    | 東ティモールの社会経済状況に適合した森林保全型農業のモデル集落が確立され、農民の生計が向上する。   |
| (2) 事業内容    | <p>(1) 森林保全と生計向上のための合意づくり</p> <p>① 薪利用と森林保全に関するワークショップ (WS) の実施<br/>クロロ、ハトゥカデ、ルスラウ、ハヒタリの各集落で WS を実施 (9月12, 14, 21日, 10月2日)。合計110世帯が事業への参加を表明。</p> <p>② 土地利用マップの作成<br/>地域の土地利用状況を調査 (10月)。</p> <p>(2) 有機農業技術の指導と庭先養鶏・養豚の技術向上</p> <p>① 有機農業の体系的な技術指導<br/>土づくり、播種、定植の技術指導実施 (12月5日～14日)</p> <p>② 庭先養鶏・養豚の技術向上<br/>1月に技術指導を実施するために各集落の養鶏・養豚の実情調査を実施 (10月)。</p> <p>(3) コーヒー等の特用林産物の技術改良と新しい産物の普及</p> <p>① コーヒーの日陰樹 (モクマオウ) とコーヒーの苗木の配布<br/>東ティモール農水省森林局の苗床を訪問し、必要数を注文 (12月)。</p> <p>② かんきつ類の苗の配布と技術指導<br/>苗の入手先を調査し、植木組合 DAHAS から入手することを取り決め、発注 (11月17日)。</p> <p>③ カルダモンの育成<br/>インドネシアで良質のカルダモンを入手することができないためスリランカで入手することとして、入手先を決定。東ティモールの食物検疫上種子で輸入するほかないが、そのためには農水省園芸局からの認可が必要で手続き中。</p> <p>④ 蜜蜂の飼育<br/>調査中。</p> <p>(4) 薪貯蔵所、ロケットストーブの導入</p> <p>① 薪貯蔵庫の準備<br/>職員の交代などのため計画が遅れ、雨季前に着手することができず4月以降乾季に入ってから実施の予定。</p> <p>② 改良かまどの導入<br/>2012年1月に試験制作したロケットストーブを半年間試験利用したが、トタンで作成したところ数か月で内側のトタンが崩壊したので、素材をかえて再度試験制作の予定。5月以降に導入予定。</p> |

|             |  |
|-------------|--|
| (3) 達成された効果 | <p>(1) 各村でワークショップを実施して、当事業への理解と関心が高まった。</p> <p>(2) 有機農業技術指導実施によって土づくり、播種、定植の技術移転がなされた</p> <p>(3) 養鶏・養豚調査を行い、養豚数4頭未満が223世帯、4頭以上が7世帯であることが把握できた。来年度にバイオガスを導入することを予定しており、そのためには4頭以上の豚を飼育していることが必要なので、今後当団体の自己資金によるマイクロクレジットを導入することによって各世帯4頭以上を保有できるよう支援し、今後の事業に参加できるようにする。</p> <p>(4) 苗木を手配して、2月以降に以下のように配布する準備が行えた。クロロ30世帯、ハトゥカデ27世帯、ルスラウ27世帯、ハヒタリ21世帯に果樹の苗25株、日陰樹の苗25株ずつを配布し、次の段階で残りの100世帯に日陰樹およびコーヒーの苗を配布する予定。</p> |
| (4) 今後の見通し  | <p>2013年1月～2013年6月 薪供給林の育成</p> <p>2013年4月～6月 薪貯蔵庫の確保</p> <p>2013年5月～6月 改良かまど(ロケットストーブ)の導入</p> <p>2013年1月～3月 特用林産物の調査(継続)</p> <p>2013年3月～6月 特用林産物栽培の技術指導と普及</p> <p>2013年1月～6月 採卵鶏の導入と飼育指導、豚肥育指導</p> <p>2013年2月～6月 家畜小屋修繕</p> <p>2013年1月～6月 東ティモールで森林保全型農業に取り組む団体との交流(継続)</p>  |